

**高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会
平成28年度 第一回会議 議事録（要旨）**

日時：平成28年9月13日 13時30分～15時30分

場所：高知県立牧野植物園

参加者：

改訂委員：石川委員、鴻上委員、坂本委員、細川委員、前田委員

事務局：高知県環境共生課（4名）

取材：1社

【開会】

○改訂委員会設置要綱の確認

資料：高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会設置要綱

○委員、事務局の紹介

資料：高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会委員一覧

○委員会参加者数、定員数の各員

委員5名全員が出席で本会議が成立

議事（1）高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会について

○委員長、副委員長の選出

委員長 互選により、石川 慎吾氏

（これより石川委員長が議長となり進行）

副委員長 委員長指名により、鴻上 泰氏

議事（2）高知県レッドデータブック（植物編）改訂について

○事務局よりRDB改訂の方針について、下記資料を使って説明。

資料：高知県レッドデータブック（植物編）改訂について

環境省レッドリストカテゴリーと判定基準（2015）

- ・改訂するもの
- ・改訂の目的
- ・改訂の方針
- ・調査の進め方について
- ・種の評価の進め方について
- ・スケジュール

○事務局の説明を受けて審議

①調査対象種について

・今回の改訂では、野生維管束植物を対象とするが、他の分類群についても今回の改訂では難しいと思うが、生物多様性の視点から今後どういう方針でレッドリストを作成するかについて決めておいて欲しい。

・研究者が少なく個人に負担がかかっているため、全国の状況については県が調べてほしい。

（事務局）

→次回の委員会までに考え方を整理し、県の方針を示したい。維管束以外は情報が不足している部分が多い。

②来年度当初に調査対象種リストを作成して、7月頃から調査を開始したいと考えているが時期は適当か。

・春の植物は夏には消えてしまうので、7月に調査を始めるのは遅すぎる。年度当初から開始する必要がある。春の調査は2回確実にできないと困るので、確実に2シーズン欲しい。2年でも難しい。

・7月に調査を始めるのは遅すぎる。

・調査対象種リストについては、今年度中にリストを作成する方向で進めてもらいたい。

・新産種については、2010年以降に生育が確認された野生植物で5市町村以下に生育というルールでリスト選定基準はいいか。

③調査方法について

・生育場所は公表できないが、守れなかったら意味がない。初版は市町村まで書いていたので、そこまで書ければ。気を付けなければならぬ地域がわかるほうがいい。まだ、見つかっていない地域についても調査をするとか。

・植物誌のときの調査員のような具体的な場所を知っている人にピンポイントで依頼する。

・すべての種について、調査するわけではなく、特別に調査しないといけない種について、抜き出したらいい。

・少なくとも県内で一箇所で見つからない種はたくさんの地域で調査したい。

④どんなデータをとるのか

・レッドデータブックとして公表するデータと公表しないが高知県の植物データとして情報をもっておくデータがある。仕分けする必要がある。

・データはたくさんとってもアウトプットに出すものは少し。しかし、ブックが保てるデータは少なくともとっておかないと。

・少なくともレッドデータブックとして県民に公表するデータは必要条件としてとっておく。

⑤アウトプットについて

・高知県植物誌は3次メッシュ。それ以前はメッシュがなく、地名が書かれている。今回はGPSで調査する。

・細かいデータがあるものは、定量的評価できるものはしていけばいい。

・どの種が定量的な評価ができるか。精度の高い調査をしないと、リストアップしないといけない。

・今回の調査票は、2000年調査票にGPS情報と生育環境をプラスする。

⑥注目種など高知県独自のカテゴリー分けはいるか。

・必要ない。コメントをつければ足りる。

⑦誰のためのレッドデータブックか。

・製本したものを誰が読むのか。はじめの時は写真入りにして、図鑑にも使えるように作った。

・大分では簡易版がある。

・県民の人が読むのか。開発業者が読むのか。ターゲットをどうするか。

(事務局)

→県によっては簡易版・普及版をつくっているところがある。生物多様性地域戦略にもあるが、普及啓発は大事。レッドデータブックがツールとなるように考えている。先行している動物編の動きもみながら考えていただけたら良い。

⑧写真について

・十分条件のひとつとして、写真をとって欲しい。

・写真のデータベースを作らないと。植物園と県とで考えてもらいたい。同定間違いがないような写真のデータベースを県でつくれないうか。

・1000種の画像データベースをつくる。著作権をフリーにして。標本プラス写真でデータベースを。

(事務局)

→必要性があれば計画に入れることも検討する。

⑨調査・種の評価の進め方について

- ・評価するときよりも、調査をするときに分科会が必要になる。
- ・植物誌は、縦、横で調査した。シダ植物、水草に分けて全県域（地域ごとに）で調査した。評価についても、分かれてしていた。陸上植物はこのメンバーで評価できるが、水草はこのメンバーでできるかどうか。
- ・イネ・カヤツリグサ科は保留で、シダと水草は分科会を作って調査をする。

⑩APG体系（遺伝子情報であるゲノムの解析に基づいた分類体系）について

- ・分類については、調査の段階からAPGです。
- ・これから発刊されるレッドデータブックはAPGで出てくると思う。

⑪スケジュールについて

- ・調査対象種リストは今年度中に作って、調査は来年度の4月から開始したい。
- ・債務負担契約で切れ目ない調査ができるようにしてほしい。
- ・スケジュールどおりに行かなかったらどうか。

(事務局)

→スケジュールどおりにいかない場合もあると思うが、もし調査が長引くと32年度の発刊が遅れ、愛知ターゲットの2020年に間に合わない。ゴール地点は2020年にしたい。

⑫雑種の扱いについて

- ・雑種で片親は普通種、片親は県内で存在が確認されていない種の扱いは、数が少ないので、リストアップし、調査対象種リストを作る時に検討する。

⑬固有評価について

- ・初版では高知県固有評価を行っているが、最近では高知県固有種（A評価）がほとんどなくなっている。
- ・固有評価をするかどうかについてはあとから決める。

閉会